

## 第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名	ちびっこきらら保育園
第三者評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会
評価実施期間	令和 2年 11月 12日(契約日)～ 令和 3年 3月 26日(評価結果確定日)
過去受審回数 (前回の受審時期)	回 (平成 年度)

### 1. 概評

#### ◇ 特に評価の高い点

【当保育園の保育の特徴に理解を示している保護者と職員の強い信頼関係の下、保育(教育)が行われている】

当保育園は、①知育:0歳児からの幼児教育(右脳教育)として、各年齢に合った石井式漢字教育やフラッシュカード・各種カードを使ったパターン教育、発想力や想像力を豊かにするタングラムパズルを使った遊びの提供、②体育:病気に負けない健康な体づくりとして、1年間半袖体操服や上半身裸、草履での生活、ブリッジや跳び箱、鉄棒、持久走等、運動を中心とした活動の提供、③徳育:感謝の心や他人をいたわる心を育むとした3本の柱を特徴とした保育(教育)を行っている。その特徴に共感して入園した保護者と職員との信頼関係は強く、利用者アンケートからも「小さいうちに学ばせなければいけないことをきちんと教えている貴重な保育園である」、「保護者の思いに親身に丁寧に対応してくれて感謝している」等、保護者に寄り添う職員の姿勢や教育活動の取り組みに対して、保護者が理解し信頼していることが窺える。

#### 【特徴ある理念と保育内容】

平成8年から現在に至るまで、認可外保育所として理念の下、特色ある保育内容を提供している。心の保育を理念の第1の柱に、困難なことにも諦めない強い心、感謝する心、他人をいたわる心を育む保育を目指している。また、箸の持ち方をはじめ、食事マナーやトイレトレーニング、小さい子への接し方、話を聞ける子等、日々の保育の中で無理なく身に付くように全職員で指導方法を共有し取り組んでおり、保護者からも支持を得ている。

#### ◇ 改善を求められる点

#### 【保育理念・方針を反映した中・長期計画の策定】

これからのビジョンとして「地方裁量型認定こども園」を目指すことを明確にしている。今後は、そこを踏まえ、現在課題として捉えている、①地域との交流、地域との協働(子育て支援)、②人材の確保(人事管理)、育成等、具体的な目標や取り組み内容、数値目標や成果、期間等を取り入れた中・長期計画の策定が望まれる。また、その策定には、職員や地域、保護者が参画の下、要望や意向を反映させて策定し、保育事業に対する理解と支援につなげられることを期待し

たい。

【保育を行う上で必要な各種マニュアルや個々の子どもの成長経過記録表等の書類の作成】

児童票と共に、子どもの成長経過記録やアレルギー、慢性疾患等、子どもに関わる情報を記録したものを一人ずつファイリングし、入所時から修了時までの記録が残るような書類の整備が望まれる。同時に、保育を行う上で必要となる様々な場面のマニュアルや標準的な保育の手順の作成にも努めていただきたい。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領に掲げる子どもの育ちを踏まえた保育運営の確立】

当保育園では0歳児から特徴の一つである石井式漢字教育やカードを使ったパターン教育を着席して一斉に行っている。その教育方法を繰り返し行うことで、着席する習慣や課題活動に向けて一斉に取り組む姿勢が身に付いているが、その反面、子どもが遊びたい時に玩具や廃材を準備できない、子どもが常に遊べる環境が作れない、子どもの興味や発達にあった玩具が少ない等の課題を挙げている。このように保育園の特徴と並行して、子どもが主体的に関わり遊びを展開出来る環境の必要性も認識していることから、今後は、乳幼児期に必要な保育環境や子どもの主体性を尊重した遊び環境等、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を今一度読み込みながら、課題として掲げている保育環境について考え、全体的にバランスの取れた保育運営に努めることが望まれる。

### 3. 各評価項目にかかる第三者評価結果(別紙)

### 4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価受審をするにあたり、認定こども園に向けてどうしたら良いのか、どこがいまの自分たちに足りない部分なのかを客観的にそして詳しく改善のためのアドバイスを頂きました。

自己評価で自分の保育を振り返ったり、日々の保育の中での気づきを職員で話し合い共通理解したりするいい機会になりました。自分たちの強みになる部分は自信を持ち、弱みな部分(地域における活動であったり、書類であったり等)を強みに変えていけるようにしたいと思います。

まだまだ改善するところは多数ありますが、1つ1つ改善を行い、保護者そして地域に認めて頂けるように尽力をします。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 第三者評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

### 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ホームページ及びパンフレット（案内書）に、保育理念・保育方針・保育の特徴を紹介している。認可外保育所という特性があるため、沿革や園長の言葉で保育に対する思いや姿勢が表明されている。利用見学等に訪れる保護者には、パンフレットでの説明の他、具体的な保育内容を説明し、趣旨が伝わる説明に取り組んでいる。「地方裁量型認定こども園」を目指す上で、今後は地域住民や子育てに関わる行政機関、また、教育機関や近隣の社会資源に対しても広く周知に努めることで、より開かれた保育所となり、保育に対する理解や信頼が高まることに期待したい。</p>		

#### I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>平成8年に小さな認可外保育施設として運営を開始し、社会生活の変容やこれから求められる特徴のあるサービス、それに伴う利用ニーズ・需要の高まりを見据えて、平成24年には特定非営利活動法人の法人格を取得し、事業所を新築移転している。また、認可外保育所として、認可保育施設等と同様の運営・保育を提供していても補助金が少額であり、特に人件費を含む事業費は年々増すため、経営基盤の強化、その上での人材確保・定着（処遇改善）が大きな経営課題と認識を強めている。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p>		

特定非営利活動法人の会計ルールに従い、毎年12月までの事業が会計報告されている。経営課題の「経営基盤の強化」のためには、行政から認定のもと「地方裁量型認定こども園」としての運営を目指しており、そのための設立準備金や建設積立金の資産も確保している。その他、保護者への説明や行政への交渉も進めている。これまで職員から理解や協力が得られるよう口頭での説明は続けているが、今後は、経営課題を解決するためのより具体的な計画を可視化し、中・長期計画や単年度計画と整合性を合わせて職員等の関係者に説明しながら進めていくことが望まれる。

### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・ <b>③</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>経営課題を認識し達成目標を掲げているが、中・長期計画（事業計画及び収支計画）等の策定には至っていない。起業当初から、子ども達の将来を見据えた保育に理念を持ち、厳しい経営環境の中でも実践を重ね、多くの子どもや保護者の育ちに寄与している。理念が保育方針に基づき特徴ある保育として認知され、具体化していくためにも、今後は、課題や問題点を分析して明確化し、組織体制や運営内容について具体的な見通しが持てること、併せて、財務内容を検討した収支予算等を盛り込んだ中・長期計画を策定することが望まれる。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・ <b>③</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>中・長期計画が策定されていないため、中・長期計画を踏まえた単年度の事業計画は策定されていない。今後は、中・長期計画の策定について検討・策定され、その計画が反映された当該年度の具体的な事業計画や収支予算書が策定されることに期待したい。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・ <b>②</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>中・長期計画書及びそれを踏まえた単年度計画は策定されていないが、特定非営利活動法人の運用に従った「特定非営利活動法人ちびっこきらら保育園令和2年度事業計画書」が作成されている。この計画書には、特定非営利活動に係る事業について明記されているが、課題や目標に向けた組織体制、保育事業の内容、人材の確保や育成等について示されていない。今後は、取り組むべき課題や内容について、職員等の参画の下、数値目標や評価の時期を設定し、設定した目標や課題の解決・改善の状況、効果について検討し、中・長期計画や次年度計画へ反映させる仕組みが構築されることが望まれる。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・ <b>③</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p>		

事業運営については、年度当初に開催する保護者会総会で説明しているが、計画書や資料に基づいての説明は行われていない。（今年度は、コロナ禍のため中止している。）今後は、大きな経営課題である「地方裁量型認定こども園」の認定について盛り込んだ事業計画書を策定し、職員や保護者のみならず地域や関係機関への周知に努め、事業に対する理解と支援が広がることを期待したい。

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>定期的に主任会議や職員全体会議を開催し、全体的な計画に基づいての保育実践や、ケース検討等、保育の振り返り、指導及び助言を行っている。また、今年度より自己評価に取り組んでいるが、集計や分析までに至っておらず、今後は、自己評価の結果を数値化・分析し、自らの気づきや、園の強みや課題を知り、業務改善に繋がられることを期待したい。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>今年度より実施している自己評価が恒常的な取り組みとして継続し、職員会議等で検討された課題、改善に向けた内容や取り組みが、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（見直し）のPDCAサイクルとして機能・共有され、組織的に保育の質の向上に取り組む体制が早期に構築されることが望まれる。</p>		

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>特定非営利活動法人の総会及び職員会議を通して、園長は起業時からの趣旨や保育理念について丁寧に伝え、賛同を得ているが、文章として明確に示していない。事業運営における有事対応については、災害及び事故マニュアルに指揮命令系統を定めており、不在時の権限委任においては、副園長を2名配置し、園長代理としての役割を明確にしている。今後は、自らの立場も含め、各職務についても職務分掌等に役割や責任を明確にし、より効率的な運営に繋がることに期待したい。</p>		

11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>認可外保育施設として、児童福祉法はもとより事業所管理における消防や労務関係の各種法令、コンプライアンスの徹底に努め、個人情報取り扱いについてはホームページにも掲載している。職場では、事例等を紹介しながら児童虐待等の予防の啓発に取り組んでいるが、コンプライアンスに係る規程の策定や職員等への研修の実施には至っていない。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長は認可外保育施設という特性を踏まえ、事業の沿革や取り組む保育の特徴をホームページで広く情報発信している。保育の3本柱となっている知育・体育・徳育の実践に対しては、自らが知識・技術の習得に努め、職員及び子どもへの指導・助言に長年取り組んでいる。また、職員ヒアリングでも信頼の大きさが窺え、保護者アンケートからも満足度の高さが伺える。保育理念の継承と求められるニーズに応えるべく、「地方裁量型認定こども園」の認定に向け尽力している。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>認可外保育施設という経営的に厳しい条件下ではあるが、保育理念及び特徴ある保育実践を通し、定員90名という中規模の保育施設に育てている。園長と副園長は、何より大切な人材を「人財」と捉え、折に触れ職員の意見や要望を受け止め、改善に取り組んでいる。今後は、ホームページの園長の挨拶にもある「何よりも、子・親・保育者が三位一体となり…」の下、保護者からの意見や要望を掘り出し、運営に反映させていくことで、より運営業務の実効性が高まることに期待したい。</p>		

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・ <b>c</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>これまでも認可外保育施設という経営基盤の上で、職員の人材確保・定着は大きな課題となっている。収入が限られている中、人材の確保や定着のための取り組みについては、計画的な体制とは言い難いが、現在まで看護師、保育士、幼稚園教諭、調理師の有資格者の確保に努めている。今後は「地方裁量型認定こども園」の運営に基づいた中・長期計画の中に、人材確保や育成の項目についても、組織運営に適切な人数や体制を取り入れながら立案されることに期待したい。</p>		

15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・ <b>②</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>理念や保育方針に基づく「期待する職員像等」について、明確に表明されているものはないが、園長（兼理事長）や副園長の思いと姿勢に賛同する職員が、厳しい処遇環境の中でも意欲的に就労している。今後は、経営基盤を「地方裁量型認定こども園」という制度の下、運営する目標を早期に達成することで、法人組織として総合的な人事管理体制が確立することに期待したい。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮なされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・ <b>②</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員は厳しい就労環境（育成・処遇等）ではあるが、理念と保育方針の実践のため日々自己研鑽に努めながら特徴ある保育の実践に努めている。また、副園長が自らも就労と子育てを両立させて来た経験を活かしながら、職員一人ひとりの心身の健康状態やワークライフバランスへ配慮するため、細やかなコミュニケーションを図っている。今後は、これまで把握してきた意向等を参考に制度運営を見越し、就労環境の見直しやストレスチェックの実施、有給休暇の取得率向上等への取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・ <b>②</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>今年度から自己評価シートを導入し、個別の課題抽出と目標設定、評価を行っていくことを検討している。これらの仕組みを運用するためにも、今後は、法人理念や保育方針を踏まえた「期待する職員像等」が明確にされることが求められる。また、職員一人ひとりの育成に向けた仕組みが職員に周知され機能していくことで、能力の向上や育成体制の構築につながることに期待したい。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・b・ <b>③</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>認可外保育施設の立場であることから、黒部市保育士会等の公的機関等へ所属していない。加えて、制度による補助金が少ないため、過剰な人員確保が困難となっており、教育や研修等に関する基本方針や計画の策定に至っていないが、その中においても、黒部市や富山県、認可外保育施設等が開催する研修には可能な限り参加できるよう配慮している現状である。地方裁量型認定こども園を目指すためにも、今後は、多様化する保育サービスについて、多角的に学びを深められるよう、キャリアパスを踏まえ体系化した教育・研修体制の方針や計画の策定が望まれる。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・b・ <b>③</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p>		

認可外保育施設の運営は、経営的に厳しく、日中に実施される研修へ職員を派遣することが厳しい状況であり、また、子育てと仕事の両立を図っている世代の職員が多いことから休日や時間外の研修参加も難しく、職員一人ひとりの教育・研修の機会を設けることが出来ない。学びの機会として、職員会議で事例検討や他クラスの保育を振り返るパターン勉強会、特徴ある保育の実践指導等を継続しているが、教育・研修の機会は乏しいため、今後は、早期に教育・研修に対する方針や計画を策定し、職員一人ひとりに自ら設定する課題や目標に向けた教育・研修の機会が与えられることが望まれる。

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・ <b>◎</b>
----	--	---------------

<コメント>

現在認可外保育施設のため、実習等の受入れが行われておらず、実習生等を受け入れるためのマニュアル策定も進んでいない。これから認定を前提として計画を進めていくためには、小・中・高校等からの活動受入れや、実習依頼を想定していく必要があるため、今後は、担当窓口（担当者）や利用者への説明・周知、実習生とのオリエンテーションや感染予防等、多岐にわたる内容について検討と対策を講じたマニュアルの策定、実習担当者による研修の履修等が望まれる。

### II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ <b>◎</b> ・c
<コメント> 特定非営利活動法人ちびっこきらら保育園のホームページに、保育運営が様々な項目で紹介されおり、イラストや活動の画像も使用され、とても見やすいものとなっている。しかし、地域性を考えると必ずしも通信機器からの情報を入手できるとは限らないため、今後は、保護者や行政等へ配布している、保育園だより等を地域や子育て支援機関等へ向けて回覧・配布する等、地域社会に対してより情報を公開・提供していくことで保育所運営への理解や交流が深まることに期待したい。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・ <b>◎</b> ・c
<コメント> 保育事業における事務・経理業務等の規程等は特に作成されていない。認可外保育施設のため特定非営利活動法人の会計基準に従い、園長（理事長）が運用し、監事による監査が行われ、総会で報告及び承認されている。その内容は、毎年決算後に富山県へ報告し、事業報告や決算報告は内閣府のNPOポータルサイトにて閲覧可能である。今後、認定の下で事業を展開し、経営状態が改善できれば外部の専門家による助言・指導を受けたいと考えている。		

## II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・㉔
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>当保育園は地域との交流が大切であることを理解しており、どのような形でつながりを持つか模索している。地域社会の一員としての保育園の役割を果たすために、子どもたちの地域参加や老人会との交流等は重要であり、地域に保育園が認識されるためにも、積極的な交流を工夫し、提案していただきたい。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・b・㉔
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>当保育園ではボランティアを常時受け付けているが、現在まで申し込みがなく、受け入れたことがない状況である。また、ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明文化したものなく、今後は、地域・学校等のボランティアの受け入れを想定した体制整備を行い、地域・学校教育施設・体験教室等への働きかけや協力を期待したい。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・㉕・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握し、電話番号と共に職員室の見やすい場所に掲示してある。定期的な会議等はなく、必要に応じ連携を取っている状況であるため、今後は、社会資源を把握しながら関係機関・団体との連携が定期的に図られるような取り組みに期待したい。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a・b・㉔
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子育て支援事業や子育てサークル等、地域の福祉ニーズを把握するための活動は行っていない。今後は、子育て支援サークルや相談事業への支援、地域の保護者や子ども等が自由に参加できる多様な機会や講演会等の開催を通して、福祉ニーズを把握し、地域社会における福祉向上の役割を担われることに期待したい。</p>		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・㉔
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地域の福祉ニーズ等を把握しておらず活動も行っていない状況である。保育園が持っている専門的知識や技術を地域に提供したり、地域の方を保育園行事等へ招待したりすることは、保育園と地域住民とのコミュニケーションを深めることにも繋がるため、今後は、福祉ニーズ等を把握し、地域社会の福祉向上に役立てると共に、保育園ができる公益的な事業・活動</p>		

の実施に取り組まれることに期待したい。

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもを尊重した保育理念が「心の保育」という第一の柱として掲げられているおり、一人ひとりの子どもを尊重し、毎日副園長が全園児に声をかけ、触れ合うことを努めている。今後は、職員会等で倫理綱領を参考に、子どもの尊重・基本的人権等について勉強会や話し合いを行い、共通理解を深められることに期待したい。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園当初にプライバシー保護の面から、保護者に写真や名前の掲載の可否を聞くよう配慮している。また、2階トイレが階段からよく見えるため、今後は戸を開けておく場合は、プライバシー保護の観点から目隠し等の工夫を期待したい。また、1歳児がトイレへ行く際の部屋でズボンや下着を脱ぐ場合にも、コーナーや目隠し等同様の配慮が望ましい。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用希望者に対しホームページで園の理念や方針、特徴等の情報を提供しており、入園希望者には、保育見学や保育園の内容等の説明をし、希望者が納得した形で決められるようにしている。年間15～20組の見学希望があり、パンフレットを配布し、丁寧に説明を行っている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園時（總會等）、途中入園時において保護者に組織が定めた資料「ちびっこきらら保育園の利用にあたって」を基に説明を行っており、保育の開始、変更は保護者から同意を得ている。「ちびっこきらら保育園の利用にあたって」の資料は、重要事項説明書として機能するよう、職員構成や災害時における対策事項（避難場所・連絡方法等）、年間行事予定、職員研修等の記載を加え、充実した情報提供となるよう期待したい。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・ <b>b</b> ・c

<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育園の変更にあたり子どもの今までの様子や子どもの育ち、病歴等の保育要録を提供している。副園長は相談窓口として、卒園児に対し、小学校、中学校、高校、大学等の入学や卒業等の機会を捉え、可能な限り連絡を入れる等、保育の継続性に配慮している。</p>		
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p>		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者満足に対する具体的なアンケートや仕組みはないが、大きな行事後にアンケートを実施しており、利用者の満足度を調査し改善につなげている。連絡帳を通して、全園児の保護者とやり取りが頻繁に行われており、その内容から利用者満足度の把握をしている。また、保護者懇談会では、個々の満足度や意見を聴取し、改善に向け取り組んでいる。今後は、利用者満足に対するアンケートを定期的に行い、把握・分析・改善することでさらなる保育の質の向上に期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>苦情解決の仕組みについては、入園当初書類に記載し、口頭で説明を行い、相談窓口も知らせている。相談や意見等については、日々の連絡帳（保育ノート）から把握することもあり、その都度園長や職員で話し合いながら対処している。また、副園長が相談窓口となっており、親身になって相談にのっていることが、保護者アンケート結果からも窺える。今後は、意見箱の設置や第三者委員の設置等、苦情解決の仕組みの充実を図り、保護者に十分周知されることに期待したい。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>相談窓口が設置され、副園長が対応しており、必要に応じて園長が加わることもある。意見や相談は連絡帳（保育ノート）からも把握することが多く、場合によってはメールやラインで対応をしている。保護者アンケートでは、保育園に対して「意見や要望・相談ができる」と回答している割合が高く、今後も、相談に関して、相談相手、場所、日時等が選択できることを保護者に周知し、意見が述べやすい環境整備に期待したい。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日々の連絡帳（保育ノート）や行事後のアンケート等で相談や意見を収集している。全園児の連絡帳が保育園と保護者間で毎日記載されており、保護者は相談や意見を伝えやすい環境となっている。また、送迎時の保護者との対話からも相談・意見を受け止めており、意見や要望に対しては保育園で内容を確認し、解決策等を検討した上で、迅速に保護者へ伝えている。今後は、保護者からの意見や要望、提案についての対応をマニュアルとして整備し、組</p>		

織としてより迅速な対応に期待したい。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事故が発生した場合にはヒヤリハット報告書に記載し、職員会議等で要因の分析・改善策を検討している。今後は、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等を基に、施設内外の環境整備や保育士等への研修を十分に行い、事故予防や発生時の速やかな対応を望みたい。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>感染症マニュアルを作成し、職員で十分に周知している。感染症が発生した場合は、玄関に張り紙をしたり、個人メール等で保護者に通知し、感染拡大防止に努めている。また、ノロウイルス<b>キット</b>を各階に常備し、発生時の対応訓練を行っている。感染症の対応は、予防及び発症時に感染を広げないための対策であり、今後は、保護者への周知の際に、年齢（クラス別）、人数、感染症名等の情報提供も望みたい。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>災害マニュアルを作成し、毎月防火訓練や地震避難訓練を実施しており、年1回は消防署立ち合いの避難訓練を実施している。今後は、訓練後の反省評価を重視し、課題の把握や見直しを行い、災害時の備品や備蓄も整備し、子どもの安全確保に努めていただきたい。</p>		

### Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>標準的な実施方法は、保育全般にわたり職員が行わなくてはならない保育・支援の基本である。例えば、乳児の授乳の手順書やマニュアルがあれば一定の水準や内容を保った上で、それぞれの子どもの個性に着目した対応ができ、職員も活用しやすい。そのように基本となる部分を共通化し、保育士の違い等による保育の水準や内容の差異を極力なくす意味でも、マニュアルや手引書等を充実させ、日常的に活用されることを期待したい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・ <b>c</b>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>標準的な実施方法の見直しは行っているが、組織的な見直しは実施していない。PDCA サイクル等で定期的、組織的に見直すことは、保育の質に関する職員の共通認識を育てること</p>		

<p>になるため、今後は、保育園として方法や仕組みを定め、組織的、継続的に行われることに期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。</p>		
42	<p>Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。</p>	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          児童票に子どもの発達状況、家庭状況、成育歴等が記載されており、個人懇談会、連絡帳、保護者との会話等からニーズを把握し、指導計画や全般的な保育に反映するようにしている。個々の指導計画や経過記録等を児童票にまとめて一体化（ファイル化）し、保護者のニーズの記載をすることで、一人ひとりの子どもの総合的な発達の視点が明らかになるため、今後は、アセスメントから計画作成、実施、評価・見直しといった一連のプロセスが適切に行われることに期待したい。</p>		
43	<p>Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。</p>	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          子ども一人ひとりに対する保育の向上を継続的に図るためには、作成した指導計画についてPDCAのサイクルを継続して実施することが求められ、評価・見直しを図ることで、目標・ねらいそのものの妥当性や支援の方法等が明らかになるとと思われる。今後は、指導計画評価・見直しに関する手順を保育園で定め、職員で理解、周知し実施することが望まれる。</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p>		
44	<p>Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          子ども一人ひとりの記録は「子どもの育ちについて」という書類に記録されているが、継続的に書かれておらず関連性が分かりづらいため、今後は、指導計画との関連や支援内容、成長過程等の具体的な経過観察記録が望まれる。また、日々の連絡帳には詳しく保育園での様子や子どもの成長等が記録されており、これらの内容を有効に活用し、経過記録に記載することで職員の共有化が図られることに期待したい。</p>		
45	<p>Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          子どもに関する記録は、事務室で保管されており、それらの書類は、職員室外への持ち出しを禁止している。個人情報保護に対しては意識が高いが、今後は、書類の保管方法（鍵をかける等）や、書類の持ち出し記録、保存と廃棄に関する規定等を策定し、管理が適切に行われることに期待したい。</p>		

## A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>全体的な計画（保育課程）は、理念・方針の下、知育・体育・徳育という保育園の特徴である3本柱を基に作成しており、職員で改善、変更を行いながらより良い保育を目指している。今後は、全体的な計画に基づき作成した指導計画による保育実践の振り返りや記録を、全体的な計画に反映させ、評価・改善につなげていくことが望まれる。また、保育の特徴を活かしながら「幼保連携型認定こども園における教育及び保育要領」の趣旨を踏まえ、地域の実態も考慮した全体的な計画の編成に期待したい。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>各保育室には温湿度計、換気扇、エアコン、空気清浄機を設置し、適切な環境を整備しており、0歳児～2歳児の食事や午睡の際には、机や椅子の出し入れをしながら場所の確保に努めている。また、1歳児～5歳児のトイレや手洗い場は保育室の外にあり、1歳児が排泄後、保育室で衣服を整えるために移動する姿が玄関から見えるようになっているため、トイレ近くに子どものプライバシーを配慮した衣服を整える空間の確保や、衝立等で玄関から見えないようにする等の工夫が望まれる。同時に、3～5歳児のトイレ近くにも、失敗した時に着替えられる空間の確保が望ましい。また、トイレや手洗い場を定期的に清掃しながら衛生面に配慮した環境の整備にも期待したい。</p>		
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育士は第2の母や父の気持ちで子どもと関わるよう努め、子どもへの話しかけ方も明るく元気である。石井式漢字教育、各種カードを使ったパターン教育、跳び箱やブリッジ等の運動教育の活動を通して、保育園の特徴である知育、体育を育てている。集団での活動が中心になる中、子どもの体調や気持ちに配慮し、集団活動に気がのらない子どもがいた場合は、臨機応変に活動内容を変更している。保育園として、全体的に急かす言葉や抑止する言葉が多いことが課題であると認識しており、今後は一人ひとりの子どもの発達と個人差を十分に尊重した保育活動と言葉がけについて、職員間で話し合いの場を持ち、保育の振り返りに努めていただきたい。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>3歳未満児の食事時、一人ひとりの発達に合わせてスプーンからしつけ箸に持ち替え、正し</p>		

<p>い箸の持ち方が身につくよう援助している。また、手洗い場には酸性電解水装置を設置し、除菌対策に配慮した環境となっているが、今後は、保育園以外で生活を送る上で必要な手洗いの仕方（手のひら、手の甲、指の間、指先、手首を洗う）を身につけるための援助にも期待したい。また、生活習慣の自立に向けて、子どもの意欲を引き出す物的環境の整備にも努められることを期待したい。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・ <b>⑤</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          知育、体育、徳育を育むため集団で行う課題活動が生活の主流となっており、その合間に自由遊びや行事関係の時間を組み合わせたデイリープログラムとなっている。課題活動に向けての環境は充実しているが、今後は、子どもが自主的、自発的に遊びや活動を選び、十分に楽しみ充実感を味わえる環境や一人ひとりが遊びを展開できる環境、遊びや活動を発展させ友だちとルールを作る等、協同活動へと展開できる環境、四季の自然物を使って遊べる環境等、子どもが主体的に活動できる場所と時間を十分に保障し、子どもの生活と遊びを豊かにする環境の整備に取り組んでいただきたい。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ <b>⑥</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          一人ひとりの月齢や体調に配慮し、午前中に睡眠が必要な子や身体を動かすことを求めている子、静かに保育室で遊びたい子等、子どものその日の様子を把握し、子どもの求めている生活リズムを大切にした保育を心掛けている。また、子どもの表情や素振り等から子どもの思いを言葉で代弁する等、言葉の獲得に繋がるような関わりも大切にしている。今後、指先を使って遊べる玩具を作っていく予定であるが、手や指を使う玩具や、手触り、音、形、色等に気づき感覚の働きを豊かにする玩具等、子どもの発達状態や興味関心を踏まえ、遊びを通して感覚の発達が促されるような環境の整備を図られることに期待したい。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ <b>⑦</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;          1・2歳児ともに単独クラスで過ごしている。子ども同士のトラブルを友達との関わり方を伝える機会と捉え、言葉でのやり取りに繋げるような援助を心掛けている。また、指先を使って遊べるよう磁石を用意しているが、常に遊べる環境ではないため発達に応じた玩具作りとスペースの確保に努めることを課題としている。また、子どもが自由に遊びたい時に遊びたい物で、一人遊びを十分に楽しんだり、保育士や友だちと一緒にごっこ遊びを楽しんだりできるような環境を整備することが望ましく、今後も、職員のチームワークの下、自発的な活動を尊重した保育の内容や方法に配慮していかれることに期待したい。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ <b>⑧</b> ・c

<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>3歳、4歳、5歳と年齢別に石井式漢字教育を行っている。漢字に触れる時間、空間を重視し、壁には漢字や文字に関する掲示物が多い。また、タングラム（正方形をいくつかのピースに切り分けたものを使って、形を作り楽しむシルエットパズル）を使って様々な人間・動物・物・文字等の形を作りながら発想力や想像力を養う知育教育にも力を入れている。その反面、子どもが遊びたい時に遊びたい物を準備できないことを課題として挙げており、今後は、保育室や廊下等の空間を利用して、様々な素材の廃材や紙類、用具や教材を準備する等、子ども自ら環境に働きかけ試行錯誤しながら自分の力で取り組んだり、友達と協力してやり遂げたりできる環境作りに取り組まれることに期待したい。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」のねらいや内容をバランスよく取り入れた保育と教育が、一体的に展開されるような生活環境の整備にも期待したい。</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ <b>⑨</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>療育が必要な子どもや個別的に配慮を要する児童には、専門機関と連携をとり、子どもの援助方法等の助言を受け、保育に活かすよう努めている。また、職員数に限りがあるため、個別担当保育士を設けることが出来ず、副園長が担当している。今後は、障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、計画に基づいて子ども一人ひとりの状況と成長に応じた保育が行われることを期待したい。併せて、保護者には連絡帳や言葉を通して知らせるだけでなく、子どもの状況を共有し、生活する上で効果的なツール等、具体的な関わり方を提示していくことが望まれる。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ <b>⑩</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>早朝・延長保育は0歳児の保育室で実施しており、0歳から5歳という幅広い年齢と一緒に過ごすため、テレビ、トランプ、絵本等を置き、子どもの遊びたい物や遊びたいことに耳を傾け、子どもの思いを汲み取るよう努めている。また、保護者への連絡はホワイトボードに印をつけたり担当保育士に声をかけたりしながら行っている。今後は、利用する子どもの月齢に合わせ、一日の生活の連続性に配慮した環境や関わり方を週案に明記し、家庭的な雰囲気の中で長時間保育を行われることを期待したい。併せて、保護者や職員間の連携について、保育士間の正確な伝達方法の確立に期待したい。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・ <b>⑪</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年2回小学校教諭が来園し、子どもの姿を見学したり就学前に年長児の様子を見学して意見交換を行ったりしている。11月には保護者懇談会を設け、就学に向けて話し、小学校以降の生活について見通しが持てるようにしている。今後も、子どもと保護者の就学への不安を取り除き、期待と見通しが持てるよう、小学校との連携をより深めていくと同時に、「幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有し、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育</p>		

との円滑な接続を図るよう努められることを期待したい。		
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育中の体調不良や怪我については、必要に応じて保護者に伝え受診する等、連絡体制を整えている。感染症情報は市役所や小学校からの情報を活用して玄関に掲示し、保育園内の感染情報はお便りやメールで知らせている。今後は、保健計画を作成し、玄関に保健コーナーを設け、保育園内の各クラスの感染情報や保育園を利用している子どもたちが関係する地域（小学校等）の感染情報・感染対策を保護者に提供することが望まれる。また、看護師の専門性を活かし、コロナから子どもを守るための情報や当保育園独自の感染症対策を、保護者だけでなく地区センター等、地域に向けても発信していかれることを期待したい。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>内科健診・歯科健診・眼科健診実施後は、結果を連絡帳で伝え、必要に応じて医師の受診を勧めている。また、健診を機会に身体の仕組みや歯磨きの大切さ等も伝え、身体や健康について興味関心を持てるようにしている。今後は、保健計画を作成し、健診結果を保育に反映していく取り組みが望まれる。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>医師の診断はないが遅延型のアレルギー疾患児がいた場合は、家庭と連携しながら給食で食べたものや家庭で食べたものをノートに記入し、アレルギー反応を示す食品について調べている。また、食事を提供する際には、食器に名前のシールを貼り、誤食がないよう配慮している。今後は、誤食をより防ぐために、安全に提供されているか確認できるような体制の構築が望まれる。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>3歳未満児は食事を楽しむことができるよう小グループで食べる等雰囲気づくりに配慮しており、保育士や調理員は一人ひとりの食べるペースに配慮し、適切な言葉かけをしながら子どもが一人で食べようとする気持ちを大切に援助をしている。また、3歳以上児はスクール形式で（机や椅子を前方に向け並べる）食べているが、今後は子どもが楽しく食べる雰囲気作りとして、グループを作り（コロナ対策としてアクリルミニボード等を設置）友だちと楽しく食べる機会も作られることに期待したい。年長児は自分で食べられる分量を加減できるようにしており、今後は、3大栄養の表に、その日の献立の食材を栄養別に掲示する等の活動を取り入れ、食育により関心が持てる取り組みにも期待したい。</p>		

A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>調理員は衛生管理マニュアルに基づき安全な食事提供に努めており、3歳未満児と一緒に食事をしたり保育士から情報を得たりしながら、子どもたちの嗜好や喫食状況の把握にも努めている。今後は、食育計画の作成と、献立表に毎日の喫食状況を記録として残し、献立の作成や調理をする時の工夫に繋げていくことが望まれる。また、子どもたちが食に対する興味・関心を持てるような取り組みにも期待したい。</p>		

## A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者との日常的な情報交換は連絡帳や登降園時の会話で行い、子どもの姿を共有し成長を共に喜んでいる。また、行事や子どもの普段の姿は関係者しか閲覧できないようにプライバシーを守りつつ、ホームページで掲示している。保育の意図や内容については保育園の特徴に賛同している保護者が利用しているという判断の下、保護者アンケートを取っていないが、今後は、保護者との相互理解を図るためにもアンケートの実施を期待したい。併せて、保護者が子どもの発達に関心が持てるよう、各年齢の保育内容や意図を発信する取り組みにも期待したい。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日々の送迎時に積極的に会話し、信頼関係を築くよう努めている。連絡帳に相談内容が書かれる場合が多く、園長、副園長に相談の上、返答しており、文章では伝わりにくい場合は、直接助言している。今後は、相談対応マニュアルを作成し、相談内容、討議内容、改善方法、伝達方法等を記録として残す体制作りが望まれる。同時に、相談内容を子どもの成長経過記録の中に記載し、保育に反映していかれることに期待したい。</p>		
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・ <b>b</b> ・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>朝の視診で子どもの表情や外傷、清潔等について観察し、子どもの心身の状態や家庭での養育状況を把握するよう努めている。今まで、該当する子どもがいなかったため、保育園の対応マニュアルは作成していないが、今後は、職員に対して虐待等の権利侵害に対する理解を促すために、早期発見・早期対応のためのマニュアルの作成や、マニュアルに基づく職員研修の実施が望まれる。併せて、児童相談所・市町村の関係機関・要保護児童対策地域協議会等の専門機関との連携体制の整備も期待したい。</p>		

### A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・㉑・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年齢別月案や週案の反省評価を通して自らの保育の振り返りを行い、翌月の保育に活かしている。また、年3回、エピソード記録を用いてグループ会議を行い、他の職員の考えを聞きながら自分の保育実践の振り返りを行っている。今後は、その会議内容を記録に残し、各グループの情報を職員間で共有し、互いに学び合う機会とすることが望ましい。また、今年度初めて第三者評価を受けたことで、出来ていることや課題に気づくことが出来たと評価しており、今後は、保育士の為の自己評価セルフチェックリスト等を利用し、個人が主体的に自らの実践を振り返り、自身の専門性の向上や保育実践の改善を図っていかれることに期待したい。</p>		